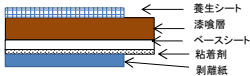


施工要領



漆喰ルマージュTの構成



養生シートは、漆喰表面に付着している、施工時に漆喰の割れ・剥離・汚れを防ぎます。施工後に剥がし取ってください。

厚さ:約 0.3mm (養生シート・剥離紙は除く)
重さ:約 300g/m² (養生シート・剥離紙は除く)

施工・メンテナンス上のご注意

施工環境

- 内装として使用
 - 漆喰ルマージュTは、内装用途にご使用ください。屋外用途には使用できません。
- 施工温度
 - 施工可能温度範囲は10℃～35℃です。
 - 低温時は接着不良が生じたり、施工後に膨れが発生する場合があります。温風ヒーター等で現場環境を改善してから施工して下さい。
 - 高温時には、粘着剤が柔らかくなり初期の接着性が高まりすぎるため、位置調整が困難になります。直射日光が当たる下地面は高温になっている場合がありますのでご注意ください。

- 環境
 - 施工面だけでなく床面の清掃を行い、必要に応じて防塵対策を取ってください。シートと下地面の間に異物が入ると膨れの原因となります。
 - 空気が乾燥して静電気が発生しやすい場所は、床に霧吹きなどで水をかけてください。
 - 必要に応じて投光器などを使用して、明るい場所で施工してください。異物の混入や膨れを見逃す恐れがあります。

施工場所

- 水廻り・湿度が高い場所
 - 漆喰はアルカリ性のため、水に濡れたままの状態が続くと白色に変色する現象(白華)が生じます。水廻りでの使用は避けてください。
- 調理場付近
 - 油分は漆喰内部にしみ込んでしまうため、拭き取ることができません。調理場付近でのご使用は避けてください。
- 曲面下地
 - 三次曲面には施工しないでください。本品は、塩ビシートのように伸びないため、無理に力を加えると漆喰の破壊・剥離が生じます。
- 重ね貼り
 - 重ね貼りの場合、防火材料とはなりません。
 - 必ず本品の養生シートを剥がした後、漆喰面にシーラーを塗り、十分に乾燥させてから貼ってください。
- 下地の色
 - 下地基材の色によっては、下地の色が透けて見える場合があります。ご使用時には十分にご注意ください。

下地調整

- 下地の作り方
 - ボード類の高さは天井高に合わせて、できるだけ水平方向に継ぎ目がないようにしてください。継ぎ目が出る場合は、できるだけ目線から離れた位置に来るようにしてください。
 - ケイ酸カルシウム板・石膏ボード・合板で下地を作るときは、継ぎ目部分をビスやタッカーで完全に固定してください。貼付け時に押さえる力で下地が動き、パテが割れる場合があります。
- 下地の汚れ除去
 - 下地表面の水分・埃・油分等を完全に除去してください。
- 下地の平滑性
 - 下地は凹凸がなく平滑な状態にしてください。
- シーラー処理
 - モルタル・合板・MDF・ケイ酸カルシウム板は、アク止め及び十分に下地に接着させるためにシーラー処理をしてください。
 - シーラーは水性アクリル樹脂系をご使用ください。推奨品:シーラーセットアップ 2倍希釈 (ウォールボンド工業)
- プライマー処理
 - 吸水性下地においては、シーラー処理で十分な接着力が得られます。金属板等の非吸水性下地においては、プライマー処理をしなくても十分な接着力が得られます。
 - 溶剤系プライマーは、漆喰のアルカリ分と反応して漆喰が変色する場合がありますため、使用しないでください。

- ガラスへの施工
 - ガラスに貼る場合は汚れを除去して直接貼り付けてください。ただし、直射日光が当たる場合は、粘着剤が劣化したり、ガラスが熱割れを起こす場合がありますのでご注意ください。

下地	下地調整	前処理	パテ処理	サンディング	表面清掃	シーラー	プライマー
石膏ボード	釘頭・段差処理	下塗り・上塗り	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	シーラー セットアップ	—	—
ケイ酸カルシウム板	釘頭・段差処理	下塗り・上塗り	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	シーラー セットアップ	—	—
シナ合板 ラワン合板	釘頭・段差処理	下塗り・上塗り	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	シーラー セットアップ	—	—
MDF	釘頭・段差処理	ポリエスチル系 パテ	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	シーラー セットアップ	—	—
モルタル	金こて仕上げ	下塗り・上塗り	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	シーラー セットアップ	—	—
ステンレス板	油脂成分・汚れ 除去	ポリエスチル系 パテ	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	—	—	—
アルミニウム板	油脂成分・汚れ 除去	ポリエスチル系 パテ	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	—	—	—
亜鉛メッキ板	油脂成分・汚れ 除去	ポリエスチル系 パテ	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	—	—	—
塗装鋼板	塗装層の確認	ポリエスチル系 パテ	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	—	—	—
塩ビ鋼板	表面層の確認	ポリエスチル系 パテ	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	—	—	—
メラミン板 ポリエスチル板	—	ポリエスチル系 パテ	#180～#240 サンドペーパー	アルコール	—	—	—
ガラス	—	—	—	アルコール	—	—	—

- 防火材料認定仕様における下地処理
 - 金属板を除く法定不燃材・法定準不燃材の場合、シーラーの仕様は、ステレン・アクリル共重合系樹脂(シーラーセットアップ(ウォールボンド工業))になります。シーラーなしも仕様に含まれます。加えてプライマー処理した場合は、認定仕様にはなりません。
 - 金属板の場合、プライマーの仕様は、アクリル樹脂になります。プライマーなしも仕様に含まれます。

裁断

- カット
 - 縦横方向に10mm間隔で方眼が入っていますので、裁断時の目安にしてください。
 - 本品の表面には養生シートが付いていますが、カットしたり、巻き直しするときは、表面に傷が付かないように床や作業台の養生を行ってください。
 - 本品の表面に付いている養生シートは、貼り付け作業が終わるまで剥がさないようにしてください。
- 一時保管
 - 裁断した本品を一時保管するときは、剥離紙が内側になるように巻き、端部をマスキングテープで仮止めし、縦置きにして保管してください。
 - 漆喰は空気中の二酸化炭素を吸収して硬化する性質があります。裁断後は長時間保管せずに速やかに貼り付け作業を行ってください。

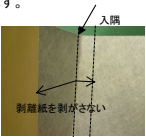
貼り付け

- 平面部
 - 剥離紙の端部から50～100mmを剥がして、折り目を付けます。剥離紙を剥がした接着面を下地に貼り、指で軽く押し仮留めします。この時点で、下地にきちんと納まるか確認します。このとき強く圧着すると、位置調整のため下地から剥がした際に本品を傷める場合がありますのでご注意ください。
 - 剥離紙の折り返しに沿って、スキージーを使って中央部から左右に圧着します。
 - 剥離紙を約30～40cm剥がしながら上から下へと圧着してください。このとき本品に余分な力を加えないようにしてください。
 - 貼り残しがないか確認しながら全体を圧着します。
 - 不要な部分をカッターで切り取ります。
 - 最後に養生シートを剥がし取ります。このとき接着不良がないか確認してください。接着が悪い箇所は、養生シートを当てて、スキージーまたはローラーを使って圧着してください。漆喰表面を直接プラスチックスキージーで擦ると擦り傷が入る場合がありますのでご注意ください。

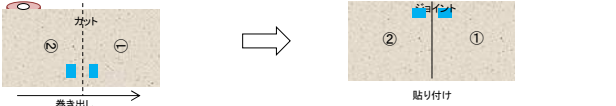
- 出隅部
 - 出隅の直線が正確に出ていることを確認してください。本品は引張り伸びが殆どないため、直線が正確に出ているとシワになりやすくなります。
 - 出隅を貼り込んだ後の貼付け面積を広く取らないようにしてください。出隅から20～30cm以内までに納めてください。
 - スキージーを使ってコーナーの頂点に折り目を付けて角を決めてください。
 - 出隅部の貼付けは、コーナー部になるみが残らないように本品を軽く引っ張りながら、圧着してください。
 - 平面部と同様に、養生シートを剥がして接着不良がないか確認してください。
 - コーナー部にクラックが発生した時は、#180～#240のサンドペーパーで軽く擦ってください。



- 入隅部
 - あらかじめコーナー部分に位置する部分から貼付け面に向かって、コーナー線と平行に20～30mmの位置の剥離紙に裏スリットを入れてください。
 - 貼付け面のみ剥離紙を剥がしながら圧着し、コーナー部分の剥離紙は残したままにします。
 - コーナー部にたるみが残らないようにスキージーで押し込み、地べらなどを使用してカットします。コーナー部の剥離紙を取り、スキージーで押し込むように圧着してください。
 - 平面部と同様に、養生シートを剥がして接着不良がないか確認してください。
 - もう一方の面も同様に貼ってカットして仕上げてください。



- 突き合わせジョイント
 - 自然素材のため、両端部の色に差がでる場合があります。ジョイントするときは、同じ位置の端部同士で突き合わせてください。(リバース貼り)



- あらかじめ剥離紙の突き合わせる端から40～50mmの位置に、裏スリットを入れてください。
- スリットした端部の剥離紙を残した状態で、20～30mm重ねるように貼り付けます。重ねるときは、目印を入れて平行に重ねるようにします。このとき、必ず剥離紙の部分で重ねよう注意してください。
- 重なり部分の中央に定規を当て、カッターナイフで直角に切れ目を入れてください。剥離紙を下敷代わりにして、下地に切れ目が入らないように注意してください。
- 裁断した端材に残った剥離紙を取り除きます。
- 本品の端部が重ならないように指先で押さえ付けます。突き合わせ部分に段差が生じていないことを確認して、スキージーで圧着します。段差がある場合は、ローラーで押さえ付けてください。

- 施工時の注意事項
 - 細い底目地(5mm以下)等にスキージーで無理に押し込むと漆喰が割れて剥がれてしまいます。細かい箇所の施工には十分に注意してください。
 - 本品の表面に付いている養生シート面及び漆喰面に粘着剤が付かないように注意してください。粘着面に養生シートの繊維が付いて取れなくなります。また、漆喰面に粘着剤が付くと漆喰が剥がれてしまいます。マスキングテープまたはファイバーテープで養生をしてください。
 - マスキングテープの種類によっては、漆喰のアルカリ分と反応して変色する場合があります。マスキングテープを使用するときは以下のものをご使用ください。No.2311(ニチバン)、SB246S・SB246・GS-21・SR-100(カモ井)、No.243J・79H(3M)、No.7239(日東電工)

施工後

- 養生シートを剥がしてください。養生シートが付いた状態では、不燃材料あるいは準不燃材料の適用対象になりませんのでご注意ください。
- 貼り付け後は、容易に本品を剥がすことができません。貼り替えなどにより本品を剥がす際、下地基材を傷める恐れがありますのでご注意ください。プライマー希釈液を漆喰表面に塗布すると剥がしやすくなります。

メンテナンス

- 日常的な汚れは、よく絞ったメラミンスポンジで軽く擦り、柔らかい布で水分を拭き取ってください。表面に水が付いたまま放置すると白く変色(白華)する場合があります。

また、強く擦りすぎると風合いが変わる場合がありますのでご注意ください。

- 小さな傷は、同色の補修パテ(製品カタログを参照)で修復することができます。傷のところだけ塗ってください。塗広げると風合いが変わるためご注意ください。

保管

- 漆喰は空気中の二酸化炭素を吸収して硬化する性質があります。必要数量をカットした後は、剥離紙を内側にして紙管に巻き、二酸化炭素の吸収を防ぐため付属のガスバリアフィルムで巻いて宙吊りにし、専用ダンボールケースに入れ、温度 10～40℃、湿度 65%以下の暗所で保管してください。

認定

品番	色	ホルムアルデヒド 発散建築材料 F☆☆☆☆	法定不燃材料 ※1	法定不燃材料 ※2	法定準不燃材料 ※3
TLT2101	胡粉	MFN-3527	NM-5046	NM-5045	QM-0979
TLT2102	消炭色				
TLT2103	焦茶				
TLT2104	利休茶				
TLT2105	枇杷茶				
TLT2106	老竹色				
TLT2107	錆音納戸				

※1 平成 12 年建設省告示第 1400 号に例示されたアルミニウムを除く不燃材料のうち、すでに化粧を施されたもの及び鉄鋼、金属板を除くもの。

※2 平成 12 年建設省告示第 1400 号に例示された鉄鋼及び金属板のうち、すでに化粧を施されたものを除くもの。

※3 平成 12 年建設省告示第 1401 号第 1 第二号から第六号に例示された準不燃材料及び告示第 1400 号に例示された鉄鋼、金属板、アルミニウムを除く不燃材料のうち、すでに化粧を施されたものを除くもの。

・改良のため、予告なく仕様を変更することがあります。

・本施工要領に記載されている内容は、本製品の適用結果を保証するものではありません。

2020 年 9 月

製造元：株式会社トクヤマ

販売元：株式会社FLTトクヤマ TEL：03-5418-1530 FAX：03-5418-1532